

における文化度の約半分しか恩恵を得ていない結果になっている。しかし、そのような家庭の文化度は、そのまま学習においてこれと平行する成績結果を生んでいない事実が、単語検査や知的理解力に出てきた。

単語検査の分析 都会的なもの、地方的なもの、機械的なもの、天然自然、農業、商業、交通、食物、生活習慣など、およそあらゆる生活断面を代表することばを与えて、この理解程度を検出。

その結果は正解を示した%をとりあげて計算したが、それによると千代田区では、皆が共通に知っている単語が少なく、三五%以下の児童にしか知らない単語が半分以上を占めている。これと対照的なのが足立区で、三〇%以下の児童にのみ知られている単語というのは殆どない。五〇%以上の児童に知られている単語が半分以上を占めている。一方農村に存する小学校では、三〇、六〇%の児童に知られている単語が殆どを占めている。即ち、地方の方が、單語の得点は知識が平均しており、これは主として生活経験から得ているものであるといふことができる。この結果を数値におす換算法として、二五%の正解を得たものに試みとして一・五の値を、五〇%に二・五、七五%に三・五、七五%以上に四の値を与えて計算した。単語種類ごとにその項目について成績のいい順から一・二・三とみていくと、千代田は殆ど全部が三位になつており、足立区は一位が多く、川越がそれに続いている。このことは一応私共が最初考えたことは正反対の結果であり、意外としたところである。ただ、この成績だけで、各地域の文化度の効果の判定はできないであろうと考えられるが、この点については、更に研究を試みる。

知的理解力の分析 放送についての知識及び新聞の性質についての理解力など、千代田区は成績がよい。音楽家と曲名や、樂器につ

いては、千代田区は、他地域の六七倍も成績がよい。日常生活の生活経験を通して学ぶもの、例えば纖維の種類とか食料品の原料では、逆に地方の児童の方が成績がよい。しかし農業の特色について質問したり、製品の原料などをきくと、千代田区や足立区では、知識としてそれらを知つており成績がよい。

道徳判断検査についての調査は後日発表の予定。

まとめ 生活環境のなかで自然に獲得すると思われる単語検査においては、地方の方が知識が平均しており、一方比較的文化度の高いと思われる地域では、知的理解力また文化的な事物から得られると思う知識においてよい成績を得ている。要するに、東京都千代田区の児童は、両親とか書物などを通じて獲得する知識などに秀いでいるので、その知識や理解力に個人差が多く、これ以外の地域では、日常生活経験を通じて学習しているので、その知識理解力が平均している。

(大会抄録 113—118頁)

団地における乳幼児の精神発達

愛育研究所 望月武子
高橋種昭

目的、方法 最近団地生活の特殊性ということがしばしばいろいろな分野で言われている。そこで今回われわれは乳幼児の精神発達に、そうした団地生活の特殊性がどのように影響しているかを見るため、一連の調査を計画実施した。

調査の対象としては東京都の北郊の団地を対象にし、生後六ヶ月

から五才までの乳幼児に、愛育研究所乳幼児精神発達簡易検査を実施すると共に、母親に対し育児態度に関する質問紙を郵送し回答を求めた。テストを実施した数は三五八名である。団地群に対する統制群として、一般家庭の乳幼児四百名にテストを実施し、育児態度の質問紙の回答を得た。団地群と統制群における両親の学歴、職業、家族構成などの差をみると、両親の年令が団地群がやや低いという点と、同居家庭が統制群に多くみられる点が異なる。

結果 両群の育児態度の違いを、年令差による扱い方の相違を考慮し、乳児、幼児前期、後期の三段階に分けて比較した結果、次のような違いがみられた。

授乳、離乳に関した項目には差はみられなかつたが、乳幼児の入浴の回数や下着の取替えなどの回数が団地群の方が少ない。

子どもを世話する時の態度においても団地群には、子どもの世話をいかかりきりという状態の母親はあまりみられない。

このようない傾向からみると、団地の母親の場合は、育児書やテレビなどを通じて得た新しい育児知識が充分に活かされているのに反して、統制群は祖父母からの圧力、あるいは子どもの面倒を見るおとなの方が多いなどの条件が、母親をして過保護に陥らしめているのではないかということが考えられる。

育児書の利用、玩具や絵本の与え方、叱り方などには特に団地の特徴などといふものはみられない。

しかし友達の与え方には明瞭な差がみられた。団地の母親の方が子どもに対してできるだけ干渉を少なくし自由に友達を本人に選ばせ遊ばせていている。これは団地の生活が大体同じような階層、職業の人々によって営まれていることからみて当然と言えるかもしれない。

同様にわが子を他の子どもと比較するか、という項目において

も、絶えず他の子どもと比較して神経を使つ親は統制群に多い。つまり団地の母親の方が干渉型が少ないと見える。

父親の育児に対する協力、子どもとの接觸という点では、団地の父親の方が協力的であり、接觸も多いという結果がみられたが、このような事実は父子関係からみて非常に好ましい傾向と言えよう。

次に乳幼児に対するテストの結果を、年令別にわけ、その通過率をみてみたが、はつきり統計的に有意な差があり、団地群の通過率の高かったのは乳児の運動機能における歩行の発達のみに過ぎず、他にはやや差のみられた項目もあつたが、全体的にはそれ程大きな差は認められなかつた。もちろん今回のテストの数が乳児において特に少数であったので、この事実から真に団地生活が全く乳幼児の精神発達に影響を及ぼさないなどということはできない。

結び 今回われわれが実施した乳幼児精神発達簡易検査、母親の育児態度調査の結果は以上述べたようなものであるが、育児態度の団地にみられるような傾向なり、特徴なりが最も大きな影響を及ぼすのは、テストに現われる知能の発達というような面よりは、むしろ子どもの情緒的、性格的な面に対してもうかと考えられるので今後はそくした方面に対する研究を進めてゆく予定である。

(大会抄録 123 頁)

幼児の日曜日の生活経験

発表の記録より

静岡保育専門学院 小木曾光子
静岡・広瀬保育園 青島孝子